

矢作川流域圏懇談会通信

全体会議 vol.1



発行日：平成28年3月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第5回全体会議を開催しました！

2月22日（月曜日）に矢作川流域圏懇談会第5回全体会議を開催しました。本年は流域圏懇談会の2ステージ目のまとめの年であり、平成25～27年までの進捗状況の確認と3ステージ目の活動方針の意見交換を行いました。

日時：平成28年2月22日（月）14:00～16:00

会議場所：豊田商工会議所2F 多目的ホール201～203

参加者：76名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 確認事項（H25～27の運営方針、各部会の活動進捗、流域連携テーマに関する成果）



■H25～27の運営方針

1年ごとに「企画・調整」「検討・実施」「とりまとめ・報告」の3段階で運営している。その中で、「部会別のWG」にて個別の課題の検討している。また、流域圏一体化に関わる内容については、「市民企画会議」「勉強会」「市民会議」で議論された。

■各部会の活動進捗

●山部会

「山村再生担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマを恵那、根羽、豊田、岡崎、西尾の5つの地域で議論した。また、先進事例を視察する勉強会を長野県（荒山林業）等で実施した。

●川部会

「本川モデル」「家下川モデル」「地先モデル」の3つのテーマを数回ずつに分けて議論した。また、現状の把握と先進事例を学ぶため、現地視察（小渋ダム土砂バイパストンネル）を行った。

●海部会

「ごみ・流木の問題」「豊かな海の生物調査」「海と人の絆再生」「干潟・ヨシ原再生」の4つのテーマについて議論した。平成27年度は山部会と合同部会を行い、山と海に係わる様々な観点から活発な意見交換を行った。

■流域連携テーマに関する成果（市民会議で確認）

「ごみ・流木」については、トンボロ干潟での漂着状況の確認等、「土砂」については、ダムの砂を海へ運ぶイベントの検討、「木づかい」については、流域ものさしの製作提案等、問題解決に向けた活動が行われている。

2. 協議事項（今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針、河川整備計画フォローアップについて）



■今後の運営方針と各部会の今後の活動方針

●今後の運営方針

- ・昨年度までの前期3ヶ年の運営方針を基本的に踏襲した上で、以下の4つを柱にしたいと考えている。
- (1) 各部会の活動成果の見える化 (2) 山・川・海のメンバーの相互理解の促進
- (3) 流域連携テーマ検討の具体化 (4) 河川整備計画のフォローアップの改善

●山部会の活動方針

- ・今後も4つのテーマを継承しながら、よりPR力のある情報発信、活動により築かれた人間関係を活用したイベントの開催、矢作川の水源かん養機能に配慮した森づくりの発信、木づかいガイドラインの流域内での水平展開を目標とする。

●川部会の活動方針

- ・今後も3つのテーマを継承しながら、これまでの蓄積をモデル化した情報共有・情報発信、継続的なモニタリングと順応的管理の実践、関係する委員会、自治体、団体との積極的な連携を目標とする。

●海部会の活動方針

- ・今後も4つのテーマを継承しながら、山や川との合同部会の設置と部会員同士の交流強化、矢作川を対象とした団体、個人への本懇談会活動への参加促進、活動拠点づくりを目標とする。

■流域連携テーマに関する活動方針

- ・「ごみ・流木」では、ごみマップの活用、「土砂」では、砂の駅等のイベントの検討、「木づかい」では、流域ものさしの製作等を具体的な目標とする。

■河川整備計画フォローアップについて

- ・河川整備計画の中で、以下の項目で矢作川流域圏懇談会が関わってきた。今後も、情報の提供や共有を図りながら進めていきたい。
- (1) 治水（現地での意見交換や見学） (2) 環境（勉強会・現地でのヨシ植え等） (3) 土砂管理（勉強会等）



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

1.確認事項 (H25~27の運営方針、各部会の活動進捗、流域連携テーマに関する成果)



■各部会の活動進捗

- ・山部会は、昨年度と比べて、ほぼ同レベルあるいはそれ以上に活動ができたと思う。特に、9月には東幡豆で海部会との合同会議を開催することができたことで、矢作川流域圏の一体化に向けた大きな一歩ではないかと思う。また、有志によって森づくりや木づかいの先進事例を学ぶといった試みも初めて行った。(蔵治)
- ・川部会は、家下川モデルにおいて、国と県と市の管理が複雑に入り組んでいる場所において管理者の整理を行い、各管理者に懇談会への出席を促した。矢作川流域圏懇談会がそのような場の提供を行えたことが、非常に良い進捗であったと思う。(内田)
- ・海部会は、矢作ダムを港湾部局のご協力を得て、トンボロ干潟周辺に干潟を造成したことが成果だ。その後、ここをフィールドにして、生き物の観察を行った。また、山部会との合同部会では、山の砂を海まで運ぶという砂の駅という提案があり、市民の意識改革やPRの方法を議論した。(青木)
- ・3つの部会がともによく進捗している。特に、管理の違う行政の協働に結び付けられたことは、河川整備計画策定時からの課題に対応するものであり、一つの成果であると思う。また、市民を巻き込んで流域の問題を認識していく活動ができたという意見があり、これも一つの成果であると思う。(辻本)

■流域連携テーマに関する成果

- ・山村再生担い手づくり事例集について、今年で3冊目となりますが、今年度は全体会議に間に合った。是非読んでもらいたいという願いに加え、取材を行ったメンバーが山、川、海の境界を越えて、流域全体でのネットワーク化を図っていければよいと願っている。(蔵治)
- ・今までの成果で、流域圏の人々との横のつながりができている。このつながりを活用したイベントなどで、流域圏懇談会をPRし、外に発信していきたい。(高橋)
- ・水は高い所から低い所へ流れるものであり止むを得ないが、海はその受け皿ではない。この流域圏懇談会は、立場の違いを話し合う機会を与えられたのだと思う。そのため、山・川・海の連携は密にすべきである。(石川)

2.協議事項 (今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針、河川整備計画フォローアップについて)



■今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針

- ・今回の資料に示された、懇談会の運営方針の図(懇談会の役割イメージ図)について、当初示された9年以降も続く図に差し替えるべきである。(蔵治)
- ・山部会だけで完結して満足するのではなく、川部会や海部会の方々と連携しながら、時には街や海に出ていくことも含め、様々な取り組みたいと思う。(蔵治)
- ・川部会では、メインとなるべき本川モデルの成果が出ていない。今後3年間で成果を出す必要があるため、山部会や海部会の方々にも協力をいただきながら進めていきたい。(内田)
- ・海部会はメンバーが少ないことに加え、山と川の両方の影響を受ける点から、他部会と連携して何かしたいという意識が高い。また、市民を巻き込んだ干潟の調査を行うなど、なるべくフィールドに出て、活動の範囲を広げていきたい。(青木)
- ・皆さんの覚悟としては、一つのステージが終わり、実行のステージにステージアップするということを認識することだ。それから、川部会では、本川モデルの成果が出ていないという意見があったが、これは、河川整備計画に相当する根幹が不足することであり、行政や河川の専門家は、情報を整理して対応する必要がある。(辻本)

■河川整備計画フォローアップについて

- ・河川整備計画の多くの部分で、この流域圏懇談会が期待されていると感じた。川部会の本川モデルについて、山部会や海部会が関われる余地について教えていただきたい。(蔵治)
 - 山の管理や砂防施設の配置条件は、本川モデル区間の土砂運搬に十分関係するし、河川区間の整備をどのようにしてゆくのかわかという議論は、海までどれほどの土砂が到達するかに関わってくる。(内田)
- ・今後3年間で土砂の議論を川部会と一緒にしたいと思う。(蔵治)

■全体

- ・根羽、恵那、旭、豊田、岡崎、西尾の持ち回りで流域博覧会というようなイベントをやってはどうか。(丹羽)
 - 全国的にみても、流域圏ネットワークとか懇談会がうまく回っているところは、よいイベントが開催されているところだと思われる。(辻本)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

